

錫は米政府機関閉鎖で下落

LME錫相場は400ドル安の2万2,960ドルと反落。米政府機関の一部閉鎖で下落した。

鉛は米政府機関閉鎖で懸念売り

LME鉛相場は42ドル安の2,038ドルと続落。米政府機関の一部閉鎖で懸念売りとなった。

亜鉛は米機関一部閉鎖で下落

LME亜鉛相場は55ドル安の1,838ドルと反落。米政府機関の一部閉鎖で下落となった。

アルミは米機関閉鎖で懸念売り

LMEアルミ相場は36ドル安の1,772ドルと反落。米政府機関一部閉鎖で懸念売りとなった。LMEアルミ合金はとなる6ドル安の1,775ドル、北米特殊アルミ合金は11ドル安となる1,820ドル。

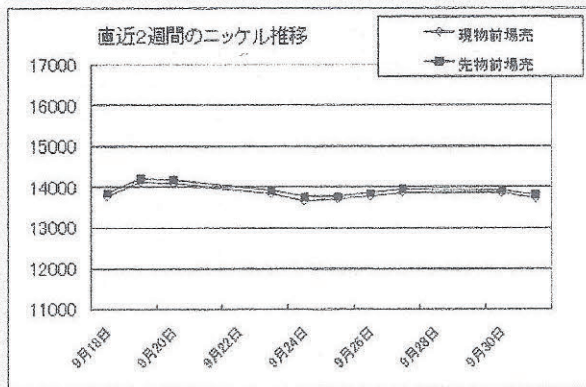
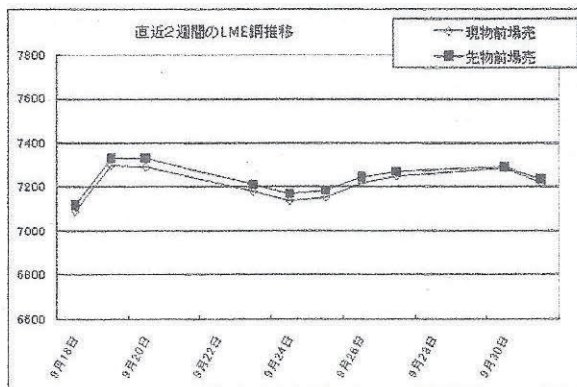
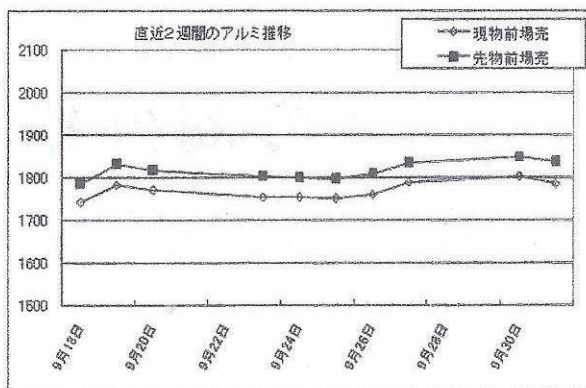
ニッケルは米機関閉鎖で下落に

LMEニッケル相場は210ドル安の1万3,700

ドルと反落。米政府機関一部閉鎖で下落に。

KLTM錫は85.9セント続落**採算値は2万8,000円安**

KLTM錫は85.9セント安の74.705Mドルと続落。USドルは200ドル安の2万3,100ドル、出来高は20トン。Mドル/USドルレート=3.2340とTTSレート99.07円で換算した採算値は2万8,000円安の229万3,000円、諸掛込みの採算値は2万8,000円安の245万3,000円。

**橋本健一郎氏の銅スクラップ9月レポート及び10月見通し**

■概況:前半は8月の中国・製造業担当購買者景況指数(PMI)が前月比+0.7%の51.0で11カ月連続の50を超えたこと、8月のHSBC中国サービス部門PMI52.8に上昇、5カ月ぶりの高水準だったこと。さらに8月の中国貿易黒字が286億ドルと予想の200億ドルを上り、輸出は前年比7.2%増、輸入は11.3%増加と中国景気後退懸念を払しょくしたものの、ロシアのプーチン大統領が20カ国・地域(G20)首脳会議(サミット)後の記者会見で、米国が軍事介入した場合でもロシアはシリアへの支援を継続するとの表明を嫌気して下落、7028ドル(セツル)と前月最終価格より67ドル下げたの前半締めとなった。

後半はセントルイス連銀総裁が10月のFOMC

で金緩和縮小の可能性に言及、アメリカの連邦債務の上限問題を巡る米与野党の交渉が難航するとの警戒感や金融緩和縮小懸念など悪材料の中、9月のHSBC中国製造業PMI速報値は51.2と6カ月ぶりの高水準。9月のユーロ圏PMI速報値は総合で52.1に上昇したこと。ロシアのシリアの化学兵器廃棄を2014年半ばまでに廃棄させる枠組みで合意したこと。さらに債務上限問題により米連邦政府機関の一部が閉鎖される可能性からのドル安を好感し上昇。10月1日現在、前半締めから262ドル上昇の7291ドルと急騰。建値76万円のスタートとなった。

■前月の経済指標:日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比-7.6%の68万487台で

あった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+12.4%の32万4315台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+8.8%の8万4343戸であった。

貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は前年比で電気銅が-1.7%の4万2008t、スクラップが+6.9%の2万3868t。輸入は電気銅が前年比-63.3%の901t、スクラップが-22.6%の5240t。また前月の国内指標を見ると、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比+0.8%の5万8590t。日本電線工業会発表の銅電線出荷速報(推定)では前年比-1.4%の5万4900tであった。

■見通し:9月はアメリカとロシアのシリアの核兵器廃絶に向けての法案で合意や米連邦政府の債務上限引き上げ問題に一喜一憂した月となった。米国の強硬姿勢への警戒感や米連邦政府債務引き上げが不能となった場合の混乱へ警戒感。自動車生産は前年比-6.4%の12カ月連続マイナスで、乗用車は-9.2%、トラックは+1.5%、バスは+11.7%となり、販売の方はついに前年超え。前年比は+12.4%で、乗用車が+12.7%、貨物が+10.7%、バスが+13.3%。新設住宅着工戸数は先月に続き12カ月連続増加となる前年比+8.8%(前月比(季節調整済み)-1.9%)の8万4343戸。住宅関連は今月も堅調で、持家が+11%、貸家が+7%と大幅増。消費税導入前の駆け込み需要からと見られる。

伸銅品生産量は前年比+0.8%の5万8590tと2カ月連続前年を上回る。輸出は円安を追い風に5カ月連続前年プラスの+12.8%。銅電線出荷量は前年比-1.4%の5万4900tと1カ月ぶりマイナス。このうち国内が-1.4%、輸出が-1.7%。建設・電販が+4.4%、電気機械が-6.2%、通信が+2.6%、電力が-2.7%となった。輸出に関しては、電気銅輸出が前年比-1.7%の4万2008tと減。銅スクラップは+6.9%の2万3868t。円安で

輸出環境であり、また国内需要家もまいち生産が改善されてこないことへの警戒感から買い気薄。輸入は電気銅が-63.3%の901t。スクラップは-22.6%の5240t。先月輸入が大幅に増えたことへの反動と国内生産への減少からと見られる。

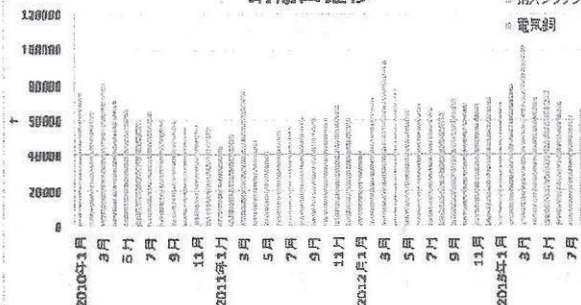
銅需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+8.8%と12カ月連続増加、持家が+11%、貸家が+7%と好調。待望の自動車は生産が12カ月連続前年割れの-7.6%。だがついに9月の国内販売台数が前年比+12.4%と大幅増。販売増につられて生産が伸びるのもほぼ確実に住宅、自動車の2本柱が復活した今後供給不足が拡大するの可能性がある。

銅価格に関しては、今月は米債務上限引き上げ問題と米FRB金融緩和縮小開始そしてイタリア連立政権崩壊懸念に伴う欧州ショックに左右される。債務上限引き上げ問題は前回同様解決することはほぼ間違いなく時間の問題。金融緩和縮小も発言が二転三転しておりマーケットも若干織り込み済みでは。欧州ショックに関しては景気回復は進んでおりマイナスは限定的との判断。それらを踏まえた銅価格は債務上限引き上げによるドル安からもう一段高の9月後半高値付近の7400ドルを予測。下値はFRBによる金融緩和縮小開始とイタリア連立政権が崩壊が起きた場合、もう一段安の7000ドルを予測。為替は債務上限引き上げ、金融緩和縮小開始、欧州ショックによるドル高からAve98円との予測。銅建値に関しては720-760円程度と予測している。

輸出	6月	7月	8月
電気銅	4万 774 t	3万 9694 t	4万 2008 t
前年比	-7.1%	-0.7%	-1.7%
スクラップ	3万 127 t	2万 2602 t	2万 3868 t
前年比	+31%	-17%	+6.9%

	6月	7月	8月
生産台数	89万 3145台	91万 114台	68万 487台
前年比	-9.5%	-1.5%	-7.6%
	7月	8月	9月
新設住宅着工数	28万 4344台	21万 7411台	32万 4315台
前年比	-13.5%	-6.4%	+12.4%
	6月	7月	8月
新設住宅着工数	8万 3704戸	8万 4459戸	8万 4343戸
前年比	+15.3%	+12%	+8.8%
輸入	6月	7月	8月
電気銅	5415 t	5287 t	901 t
前年比	+65.2%	+151%	-63.3%
スクラップ	3964 t	5765 t	5240 t
前年比	-28.7%	-1.4%	-22.6%

銅輸出推移



銅輸入推移

